

博士課程教育リーディングプログラム 事後評価結果

| | | | |
|----------|---------------------|---------------|--------|
| 機 関 名 | 名古屋大学 | 整理番号 | B03 |
| プログラム名称 | グリーン自然科学国際教育研究プログラム | | |
| プログラム責任者 | 前島 正義 | プログラムコーディネーター | 阿波賀 邦夫 |

博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価

[総括評価]

計画を超えた取組が行われ、優れた成果が得られていることから、本事業の目的を十分に達成できたと評価できる。

[コメント]

リーダーを養成するための学位プログラム、体制等の構築については、プログラム学生の自主性を重んじつつ切磋琢磨させるという方針の下、優れた学位プログラムに加えて、俯瞰力、展開力、国際性、リーダーシップ力を養うとともに、学生の人的ネットワーク構築に寄与する多様なプログラムを提供し、常時200～250名の参加学生を確保して82名の修了者(平成29年9月末時点)を輩出したことは高く評価できる。

修了者の成長とキャリアパスの構築については、産業界に職を得た者が修了者の半数以上を占め、海外の研究職に就いた者や起業した者もいるなど、学位取得後の進路が従来に比べて大きく広がった点は高く評価できる。事業実施前には、アカデミアの進路として約33%の学生が名古屋大学に留まっていたのに対し、本プログラムの修了者では10%以下になったことも高く評価できる。また、日本学術振興会育志賞受賞者3名をはじめ、研究面で顕彰された修了者もあり、就職先からの評価も高い。NEDO主催の最優秀賞を受賞し、起業した女子学生もいるなど、「女性トップリーダー育成合宿」の取組の成果が得られていることも評価できる。これらのことから、本プログラムは、質・量の両面で当初の計画で期待された以上の成果をあげたと言える。なお、支援期間後半で認められた目覚ましい進捗と優れた成果には、中間評価後、プログラムに加わる教員・メンターの事業への理解の深化が少なからず寄与したものと言える。

事業の定着・発展については、本プログラムにより、大学内外の教育力を有機的に結びつけて効果的に活用することで、教員が過大な負担を負うことなく、「学位論文の質の向上」と「多様な分野への輩出」を相乗的に両立させることができることを証明した。その意味で、本プログラムでの試みは、その特筆すべきサイズ効果(費用対便益の大きさ)も含めて、今後の大学院教育を構想する上での有用なモデルの一つとなりうると思われる。また、支援期間終了後の主要なプログラム内容の継続に関して、具体的で現実的な計画が立てられていること、事業で得られた経験と成果を将来に生かす大学全体としての体制と計画が構築されつつあることも高く評価できる。